

ミライ実現戦略 2030

ミライ実現戦略 2030 とは（意義）

「ミライ構想」で掲げる将来像を実現するために

5年間で特に注力する取組の方向性を示します。

ミライ実現戦略 2030 策定にあたって

1 はじめに 一人口減少社会においても持続可能なまちをめざしてー

○人口構造の大転換

- ・本市は、少子高齢化が進行し、更には 2019 年から人口減少となるなど、人口構造の大きな転換点にあります。
- ・日本人人口は 2016 年をピークに減少しており、2023 年 10 月に約 39 万 7 千人となっています。一方、外国人人口は、2020 年以後新型コロナウイルス感染症の影響で一時減少していましたが、2022 年以後は再び増加し 2 万人に迫るなど、過去最高を更新しています。（図表 1）

○近年こどもの数が大幅に減少

- ・本市の合計特殊出生率は、1.41（2022 年）と全国（1.26）や愛知県（1.35）を上回っているものの、本市で生まれるこどもの数は 4,146 人（2013 年）から 2,694 人（2023 年）へ、直近 10 年間で約 35 パーセント減少しています。（図表 2）
- ・こども家庭庁「こども未来戦略」によれば、未婚化・晩婚化が進行しており、少子化の大きな要因とされています。一方で、国立社会保障・人口問題研究所「第 16 回出生動向基本調査（2021 年）」によれば、18 歳～34 歳の男女の未婚者について、近年減少傾向にあるものの、8 割以上が結婚したいという意思を持っています。
- ・また、愛知県「少子化に関する県民意識調査（2024 年）」によれば、県内に居住する 20 歳～49 歳の男女の約 8 割が、少子化の進行について「危機感をもっている」と答えています。ミライを担う世代が、自らの将来の暮らしに希望を持ち、子を生み育てやすいまちづくりを進めることは喫緊の課題です。

○若年層・特に日本人女性の流出が顕著

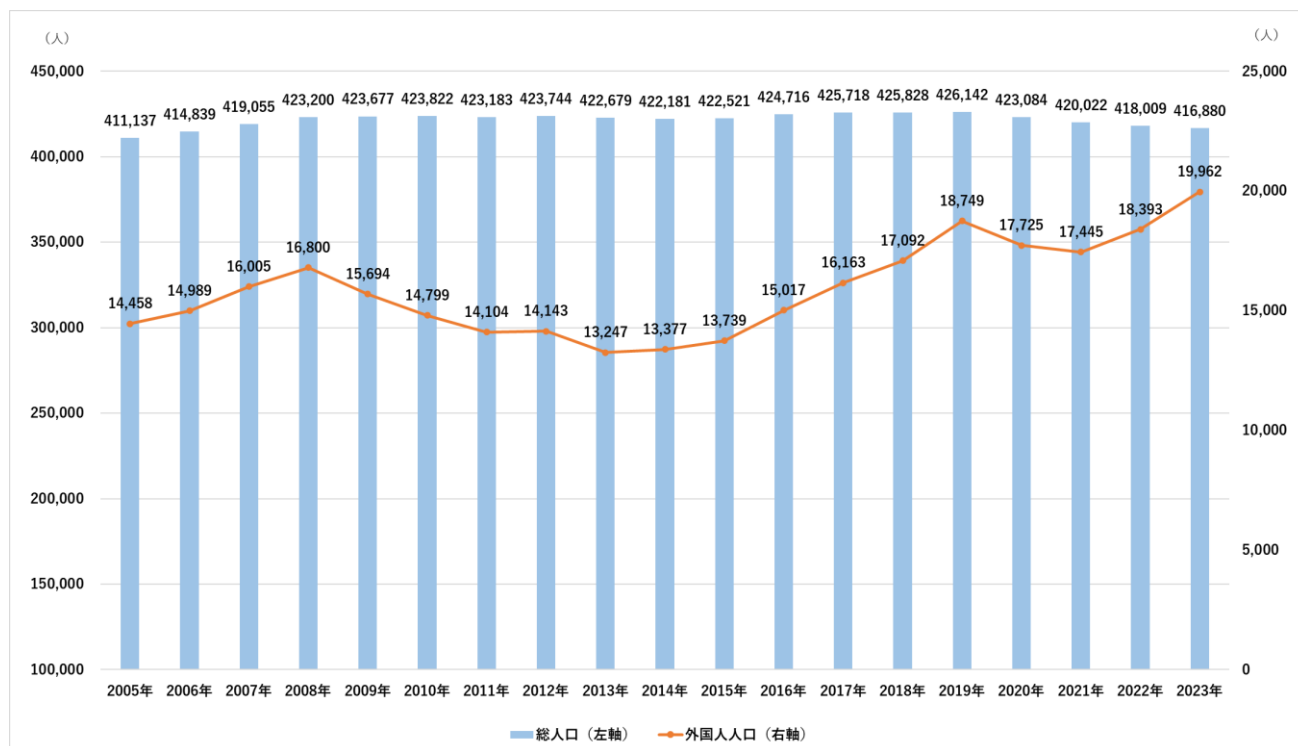
- ・本市は、製造業が集積する構造から、これまで就業等を契機に、主に 10 代後半の男性が転入増となる特性があります。
- ・15 歳～39 歳の社会動態を見ると、外国人の社会増加により全体では社会増加となっている一方で、日本人は社会減少となっています。その中でも、特に日本人女性の社会減少が顕著な状況です。（図表 3）

- ・民間の有識者グループである人口戦略会議が2024年4月に公表した『地方自治体「持続可能性」分析レポート』では、「若年女性人口が減少しつづける限り、出生数は低下しつづけ、総人口の減少に歯止めがかからない」と、若年女性人口が地域の持続可能性において重要な要素だとしています。

○ミライ志向のチェンジ・チャレンジが必要

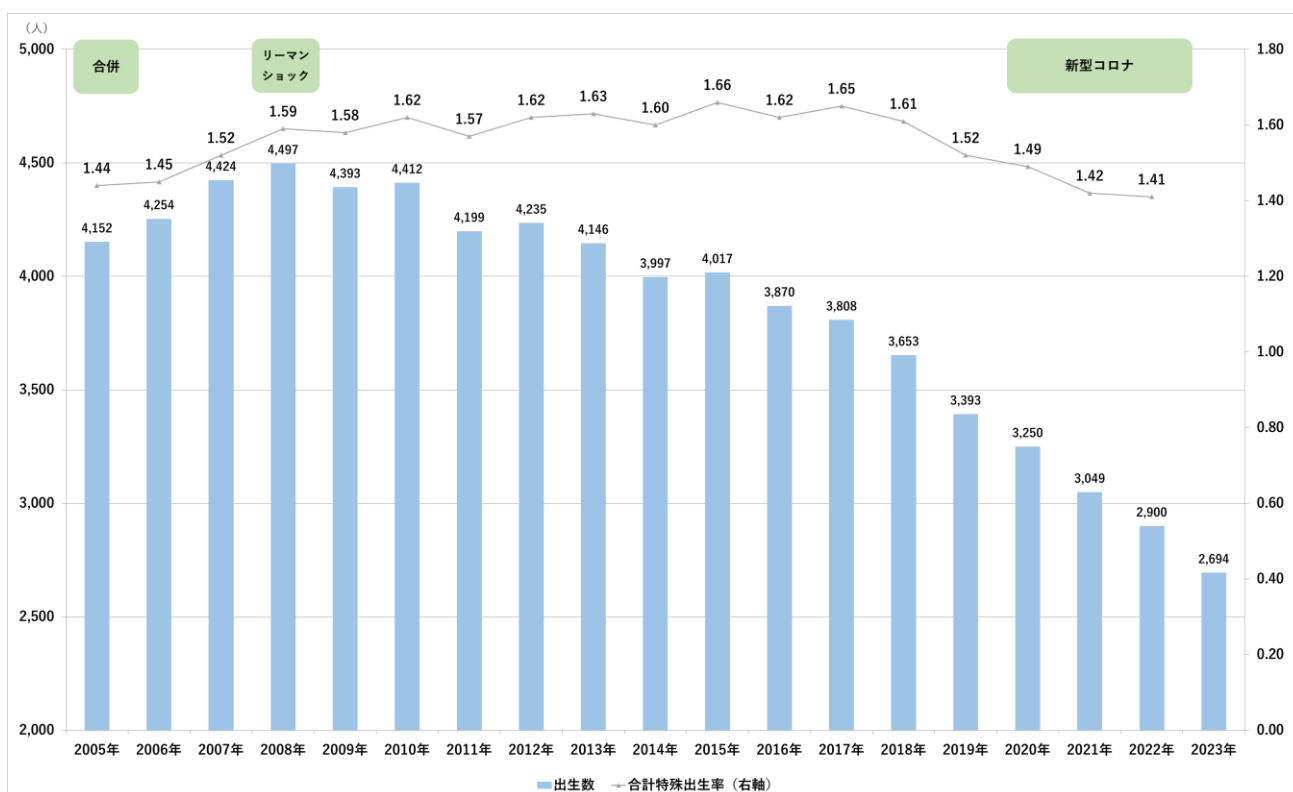
- ・中長期的に人口減少が進むことが確実な状況において、まちの基盤を支える産業・経済活動の担い手不足や、医療・福祉の仕組みが維持できなくなること、また、山村地域をはじめとした豊かな自然が保全できなくなること、地域コミュニティの活力が低下すること等、様々な分野において大きな影響が生じることが考えられます。従来の発想を前提とした仕組みや考え方を継続していくことは、近い将来不可能となることは明らかです。
- ・また、人口減少社会において、改めて「人」のつながりの価値が再認識されています。
- ・「つながり合い」の中で、誰もが社会で自らが必要とされていることに気づくことで、一人ひとりの自己肯定感や生きがいを高め、そして暮らしを楽しむことへとつながります。
- ・ミライ構想に掲げた「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」の実現に向かっていくためには、多様な「つながり」を通じて新たな価値や可能性を創出するとともに、これまでの延長線上にない新しい発想で物事を考え、失敗をおそれず、チェンジ・チャレンジ（変化を受容し挑戦する）思考で取組を進めていくことが大切です。

図表1 人口推移（総人口・外国人人口）



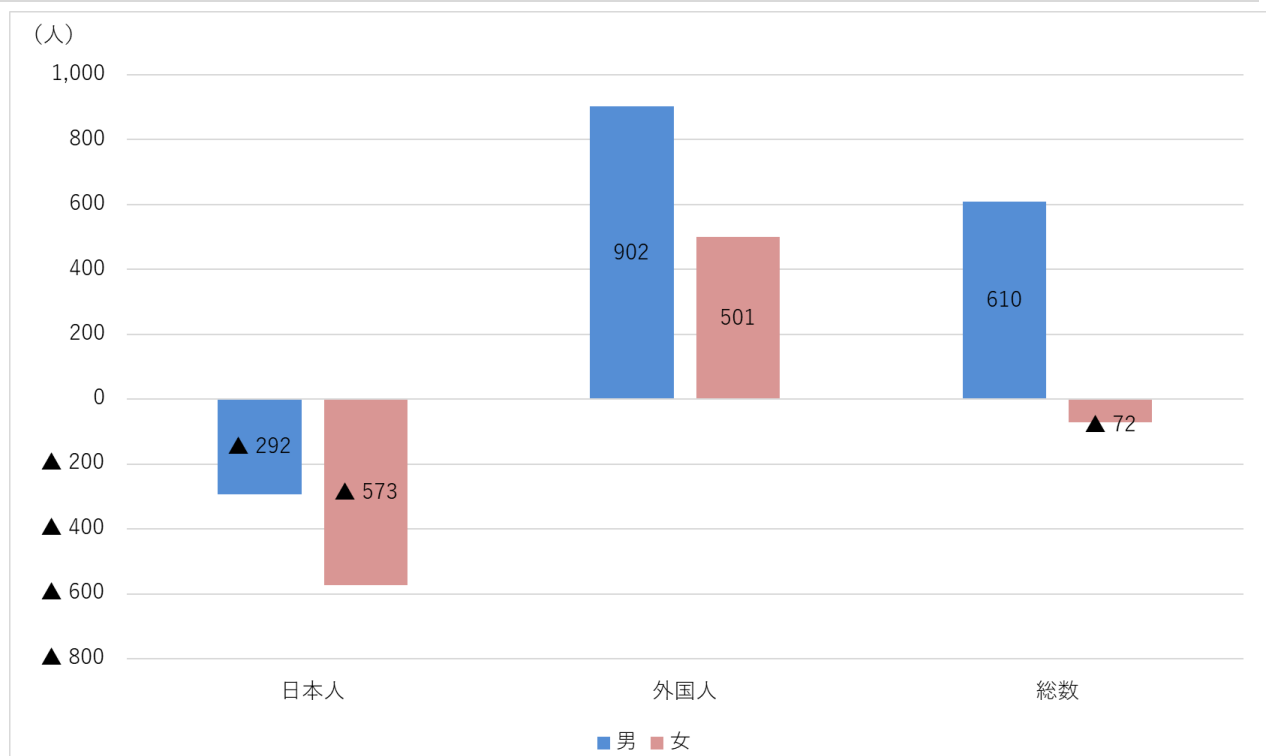
【出典】豊田市住民基本台帳（各年10月1日時点）

図表2 出生数と合計特殊出生率の推移



【出典】豊田市統計書（2023 年のみ住民基本台帳）

図表3 男女別年齢別（15歳-39歳）社会増減（2022年10月1日～2023年9月30日）



【出典】愛知県人口動向調査

2 注力する視点

(1)「こども」起点で取組を進めることが必要

○「こども」のつながりが減少している

- ・少子化や核家族化といった背景の中で、いま特に、こどもたちが多世代と接し、交流する機会が減少しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、様々な物事が自粛される中で、こどもたちは貴重なつながりの機会が失われる事態を経験しました。
- ・また、「豊田市の教育に関するアンケート調査」によれば、「色々な人に接する機会が減少している」と回答する保護者が最も多く、また、地域での教育においては「地域の大人と子どもが会う機会が少ない」「隣近所の人とのコミュニケーションが少ない」といった回答が多く占めたりするなど、子どもが多様な人や体験に接する機会が減少しているという現状があります。

○「つながり」を通じて、こどもの生き抜く力を育む

- ・変化の激しい予測困難な社会の中で、こどもたちは、自らのミライを自ら考え判断するための力を育むことが求められています。学力だけでなく、自己肯定感や、人・社会と関わる力を高めることが必要であり、多様な場で、多様な人と関わり、多様な経験をしていく必要があります。

○「こども」起点で取組を進める

- ・人口減少、少子高齢化の進行や「人」のつながりの価値の再認識といった状況を踏まえて、わたしたちが暮らすまちをこれからも魅力ある持続可能なものにするためには、本市のミライをつくっていく次世代、すなわち「こども」起点や視点で物事を捉え、取組を進めることが大切と考えます。

(2)「いきいきと暮らす大人の姿」がこどものミライに夢と希望を育む

○暮らしの安心と自分らしさを育む

- ・本市は、これまで第8次豊田市総合計画において「超高齢社会への適応」等に重点的に取り組む中で、多様なつながり合いをともに作り、暮らしの「安心」と「自分らしさ」を育む地域共生社会の実現を目指し、全国に先駆けた取組を数多く展開してきました。
- ・今後も引き続き、誰もが一生安心して、自分らしく暮らせることができるまちづくりを進めていきます。

○豊かな経験・活力を、次世代につなぐ大きなチャンス

- ・健康寿命の延伸により、従来、高齢者とされてきた 65 歳以上でも、心身ともに健康で自立して活発に社会参加できる人が増えています。人生 100 年時代といわれる中で、こ

れまでとは価値観を転換した新しい暮らし方・働き方を実現できる様々な可能性が生まれており、本市で育まれた愛着や豊かな経験・活力を次世代につなぐ大きなチャンスです。

- ・本市は、豊かな自然を有し都市と山村が近接する環境や、各地域で継承される歴史文化、芸術、スポーツの場があります。こうした地域資源を活用し、多様な価値観の下、国籍・性別・年齢等にかかわらず、人と人、世代と世代がつながり合うことで、誰もが相互に学び合い、活躍できる新たな関係性が生まれます。

○こどもたちのミライに夢と希望を

- ・地域社会においても、住民自治始め多様な参加の選択肢とつながり合いを通じて、こどもから高齢者まで、誰もが豊かに暮らせる社会を創出していくことが重要です。つながり合いの中で、一人ひとりが本市でいきいきと暮らす姿を見て、こどもたちは自らの夢と希望を育んでいくことができます。

(3) ミライにつながるまちづくりの重要性

○人を支えるまちの基盤

- ・ミライをつくるこどもたちが自分のミライに夢と希望を持ち、都市と山村のそれぞれの良さを感じながらまちに愛着を感じ、本市で暮らし続けたいと思うことが、まちの活力につながると考えます。
- ・そのためには、わたしたち自身が心豊かに暮らしているとともに、人を支える基盤であるまちが広域の中で自立とともに連携し、それがしなやかな強さにつながることが重要です。
- ・先人がこれまで培ってきた鉄道や道路などの充実した社会基盤を最大限に生かし、持続可能で強固なまちの実現に向けた取組を進めていきます。

○圏域をリードする産業中枢都市

- ・さらに、本市が人口減少社会を迎える中で、本市がこれからも産業中枢都市としての深化し続けられるよう、新産業創出や市内事業者のGX化・DX化を促進するなど、まちに活力を生み出し続けるための取組も重要です。
- ・また、様々な人材が活躍し、多様な働き方を実現できるよう、企業の人材戦略を支援し、産業の担い手を確保するとともに、一人ひとりの暮らしの満足度を高めていくことが大切です。

○安全・安心なまちづくり

- ・また、更なる選択と集中により、暮らしと自然が調和した土地利用を推進し、また、拠点同士の連携を強め、循環・対流を生み出す都市の骨格を強化するコンパクトプラスネットワークの都市基盤を着実に実現していく必要があります。本市の強みを生かしながら住みたいまちとして選ばれるよう、ニーズに合わせた魅力ある住まいや暮らし環境

を実現していくことが重要です。

- ・一方、近年災害が激甚化している中、治水や耐震等の必要な基盤整備を進めるとともに、将来を展望してより災害の危険性のない土地へ住まいを移していくなど安全・安心なまちを実現することも必要です。

○豊かな自然環境を次世代へ

- ・気候変動はいままさに喫緊の課題です。2050 年の脱炭素社会の実現に向けて、本市の高い技術力と発想力を生かして挑戦を進め、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくことが求められます。
- ・そのためには、一人ひとりが環境配慮行動を進め、市民・事業者・行政を含めた「オールとよた」で、将来にわたり環境にやさしく、多様で豊かな豊田市を受け継いでいくことが大切です。
- ・このように、本市の強みを生かしつつ、また今後生み出される様々な先進技術を融合しながら、圏域を代表する拠点都市として人を引きつける魅力を発揮し、本市ならではのミライにつながるまちづくりを進めることが必要です。

以上を踏まえ、2030 年までに注力する取組の方向性として、2 つの取組方針と 5 つの取組目標を設定します。

【取組方針 1 とともにこどものミライに夢と希望をつくる】

わたしたちは、本市がもつ誇るべき多様な地域や歴史・文化芸術、スポーツそして多様で豊かな担い手を生かし、一人ひとりがつながり、楽しみながら、こどもたちが自らのミライに夢と希望を持てる社会をつくりまします。

<取組目標①>こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できるまち

<取組目標②>誰もがつながり合いの中で安心して暮らせるまち

【取組方針 2 とともにミライにつながるまちをつくる】

わたしたちは、将来を展望し、こどもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくりまします。

<取組目標③>産業中枢都市として深化し続けるまち

<取組目標④>将来を展望した都市環境の形成を進めるまち

<取組目標⑤>脱炭素社会の実現に挑戦するまち

取組方針	取組目標（めざす姿）		取組の方向性	通番	施策名	
1 ともにこどものミライに夢と希望をつくる	①こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる	（１）こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている	●こどもが多世代とのつながりの中で多様な遊び・学び・体験ができる機会の充実	1	地域資源を生かした「遊び・学び・体験」の機会の充実	
			●こどもが多様なキャリアや先端技術等を学ぶ機会の充実	2	自ら考え判断する力を育む教育の推進	
		（２）人生 100 年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている	●いつでも誰もがやりたいことに挑戦できる機会の充実	3	多様な学びに対応した最適な教育環境の確保	
				4	大人の学び・活躍を支援する機会の充実	
		（３）市民のまちへの愛着・誇りが育まれている	●クルマの魅力を身近に感じられる機会の充実 ●本市の多様な価値や魅力の継承	5	「クルマのまち」の更なる魅力の向上	
				6	まちの歴史・文化・芸術や自然をミライにつなぐ取組の推進	
			●シティプロモーションの推進	7	身近な地域の魅力を知り、生かす機会の充実	
				8	テーマやターゲットに応じた戦略的な情報の発信	
	②誰もがつながり合いの中で安心して暮らすことができる	（１）まち全体がこどもの成長を支えている	●子育て支援や相談体制の充実	9	結婚・出産・子育て支援の充実	
			●こどもが安心して過ごせる居場所の充実	10	保育ニーズへの対応と良好な幼児教育・保育環境の確保	
		（２）誰もが地域・多世代でともにつながり合い、自分らしく暮らしている		●地域や多世代がつながり合う機会の充実と多様化	11	地域等と連携したこどもの多様な居場所創出の推進
			12		配慮が必要なこどもへの支援	
			13		地域活動の持続可能性の向上	
			14		多様でゆるやかな「つながり合い」創出の促進	
2 ともにミライにつながるまちをつくる	③産業中枢都市として深化し続ける	（１）新たな産業が創出されている	●新事業の展開や新製品開発へのチャレンジの促進	15	ミライを支える産業の創出と育成	
			●戦略的な基盤整備と立地支援	16	積極的な起業創業支援	
		（２）市内事業者が社会の変化に適応している	●市内事業者の経営力強化	17	産業用地の創出及び道路ネットワークの構築	
				18	市内事業者の持続可能性向上に向けた取組の支援	
				19	GX による地域産業の成長促進	
				20	多様な働き方を実現する人材戦略への支援	
	④将来を展望した都市環境の形成を進める	（１）次代につなぐ快適な都市環境の実現に取り組んでいる	●快適に暮らせる都市環境の創出	21	都市部の利便性の高い暮らし環境の充実	
			●つながり・連携の促進によるにぎわいと地域活力の向上	22	山村部を支える持続可能な暮らしの仕組みづくり	
		（２）安全に暮らせる災害に強いまちの実現に取り組んでいる		●激甚化・頻発化する自然災害への適応	23	社会環境の変化に適応する暮らし機能の最適化
					24	多様な人をひきつける中心市街地の魅力向上
			25		都市間・拠点間連携を支える交通ネットワークの強化	
			26		地域力発揮による防災力の強化	
			27		防災・減災を支える基盤づくり	
			28		暮らしを守る自然環境の適正な保全	
⑤脱炭素社会の実現に挑戦する	（１）CO2 排出削減目標を達成している	●多様な主体の行動変容の促進と具体的な取組の支援	29	脱炭素に向けた市民・事業者の行動の促進		
			30	脱炭素化を先導する公共の取組の推進		
			31	移動に係る脱炭素化の促進		
	（２）新たなエネルギーや技術の利活用に取り組んでいる	●新たなエネルギーや先進技術の利活用の推進	32	水素社会の実現に向けた取組の推進		
			33	公民連携による先進技術の開発・活用の促進		